

月刊



湖国が滋る・水と緑の街づくり

平成25年 5月1日発行 通巻208号
 昭和40年 8月21日第3種郵便物認可
 発行／公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

公益社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

CONTENTS

- ・故千葉 實氏 を偲ぶ会のご案内・・・ 2
- ・大津・湖西滋賀地区委員会
建築フォーラム 報告
- ・総務企画委員会
平成25年度 通常総会開催のご案内
- ・事務局
事務局からのお願い
- ・がんばれ湖国の建築士 No.7 3
- ・青年委員会
第9回ゴルフコンペ報告..... 4
- ・アイ・湖国びと..... 5
- ・地区だより..... 6
甲賀地区
- ・新入会員のご紹介
- ・5月の暦
- ・足のむくま 近江再発見 第8回



日本基督教団今津教会会堂 高島市今津町

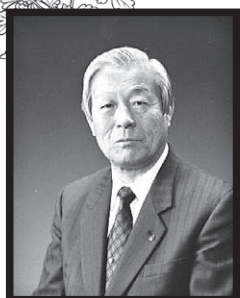
JR湖西線・近江今津駅から旧若狭街道を少し北上すると「ヴォーリズ通り」という文字が目に入る。その通りに面して建つ、日本基督教団今津教会会堂は1934年竣工したウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計の教会堂建築である。1922年に建設された今津基督教会会館の隣に教会堂として建設された。会堂は切妻造で正面間口は約8メートル。建物の奥行きは15mで、正面に玄関を突出させ頂部には方形屋根の鐘塔があげられている。日本の景観に溶け込む西洋建築というヴォーリズらしさが見えるこの教会堂は、現在は日本基督教団今津教会今津幼稚園の施設として活用されている。

平成15年（2003年）に国の登録有形文化財となった。



公益社団法人滋賀県建築士会名誉会長

故 千葉 實氏 を偲ぶ会のご案内



公益社団法人滋賀県建築士会の発展にご尽力いただき、平成25年1月にご逝去されました。千葉實氏の偲ぶ会を下記の通り執り行わせていただきます。

日 時 6月11日 火曜日
時 間 受付 17:00～ 献花はお越しいただいた順番にお願いいたします。
 偲ぶ会 17:30～
場 所 琵琶湖ホテル5階 滋賀県大津市浜町2-40 電話077-524-7111
会 費 5000円 受付にて拝受致します

ご来臨の節は平服にてお越しくださいますようお願い申し上げます。なお誠に勝手ながらご供花、ご供物、ご弔電は固くご辞退申し上げます。お申込は電話にて5月31日(金)までに下記にお願いします。

公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 TEL077-522-1615

大津・湖西滋賀地区委員会

建築フォーラム 報告

大津・湖西滋賀地区委員会は平成25年3月22日(金)、大津市民文化会館において建築フォーラムを開催しました。

今回のフォーラムでは大津市建築指導課より省エネ基準の見直しと低炭素建築物の認定制度、そして既存不適格建築物の増築、容積率の緩和等について説明をいただきました。また、景観課から風致地区に関する条例の内容について、開発調整課から開発事業の手續と基準に関する条例について説明をいただきました。

当日は会員外を含め45名の皆さんに受講いただきました。



総務企画委員会

平成25年度 通常総会開催のご案内

本年度の通常総会を下記の通り開催いたしますので、ご出席いただきますようお願いいたします。

なお、会員のみなさまには、別途ご案内を送付させていただきます。詳細はそちらをご覧ください。

- **開催日** 平成25年5月25日(土)
- **開催場所** 大津プリンスホテル 滋賀県大津市におの浜4丁目7番7号 TEL. 077-521-1111
- **開催時間** 通常総会：15:00～17:00 懇親会：17:30～19:00
 懇親会にご出席の方は、参加費 5,000円をお支払い下さい。
- **申込〆切** 平成25年5月24日(金)まで

- ◎ご出席の有無を必ずご返信ください。(ご欠席の方は委任状をお出してください。)
- ◎懇親会がございますのでお車でのご来場はご遠慮ください。

事務局

事務局からのお願い

会員のみなさまに登録について確認をさせていただきます。

みなさまご存じのとおり、本年は会員名簿発行年となっております。

2011年の会員名簿発行後、ご変更されました方はご連絡ください。

なお、名簿は本年末発刊の予定です。

名簿記載事項に変更のある方は、下記にご記入ください。

項 目	変更前	変更後
氏 名		
自 宅 住 所		
自 宅 TEL		
勤 務 先 名		
勤 務 先 TEL		
勤 務 先 FAX		

お名前	地区名
-----	-----

公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 FAX.077-523-1602

がんばれ湖国の建築士 No.7

「小径木挟み梁構法」で特許取得・伝統の技術を現代に生かす。

大津地区 川端 眞 氏

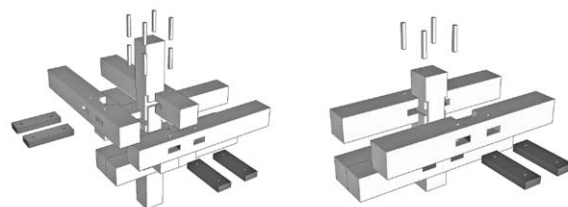
■小径木挟み梁構法開発の背景

針葉樹の人工林は、間伐と枝打ちがされなければ木材とはならないことから、地域林業の活性化において、小径木の需要拡大が緊急の課題となっている。一方、小径木の多くの需要が見込める木造住宅の分野に目を向けると、様々な問題があるのが現状である。例えば、金物を多用した現在の軸組構法は、木造住宅の安全性の底上げにはなっても、そこには木の文化の継承もなければ、木のプロフェッショナルとしての大工の自尊心もない。大工の技量低下は明らかであり、伝統的な継手や仕口では大きな安全率を見込まなければならない。また、伝統的構法で建てられる住宅は、耐久性が高く、大工の技量も発揮できるが総じて高価であり、デザインも画一的なものとなりがちであり、住宅取得者の一部にしか支持されていないのが現状である。そこでいきおいシステムキッチンに代表される住宅設備や新建材で住宅取得者の心を繋ぎとめることになっている。こうした状況を打破するため、魅力的な木造住宅によって住宅取得者の心を惹きつけるとともに、合理的な構造システムによって小径木の需要拡大を喚起する必要があると考えた。

■小径木挟み梁構法の構造的特徴

この構法は、伝統的な構造要素である長押をヒントに、大工技能者宮内寿和氏のアイデアを発展具体化したものである。細い柱に梁が取り付けための断面欠損によって、伝統的構法は終局時に柱が折れて倒壊に至ることが多い。挟み梁構法はこの弱点を克服するため、柱の断面欠損を最小限にして梁で両側から包み込むディテールとなっており、10分の1 radを優に超える変形性能がある(図①)。単純な模型実験から始めて、3年にわたる詳細な実大実験や要素実験、立体効果の検証などを重ねて最適なシステムを決定した。第1の特徴は軸組みで外力に抵抗するため面材や筋かいが不要となり、自由な外観デザインが可能となることである。一つの節点部の復元力は小さくても部材点数が多い木造建築物では十分な節点数が確保できるのである。この架構を検証するために実大実験を行ったところ、本架構は変形が増加するに従い耐力が増加し続ける復元力特性を有することが判明した。貫や差鴨居の復元力特性と同様な粘り強いせん断系架構特有の履歴を示しており、大変形時の耐力がより大きい優れた履歴特

性である。第2の特徴は同じ仕口を利用して小径木だけで横架材も構成していることである。仕口の回転剛性について要素実験を行うことで、合成梁として設計している(図②)。そして最大の特徴は、こうした小径木の架構に金物



図①小径木挟み梁構法の基本 図②合成梁部の基本ディテールディテール

を使用していないことである。近年、ようやく住宅建築にも長寿命化が求められるようになってきたが、木と金物は本来相性が悪く、建物の耐久性を著しく低下させるため、できるだけ使用したくないと考えるのは大工の共通認識である。

■小径木挟み梁構法の実例

挟み梁構法を採用した1例目は都市部に建つ平入町家型の平屋建て住宅である(写①)。すべての構造材を120ミリ角の杉間伐材(背割りのない水中乾燥材)で構成している。平面的にバランス良く配置された多数の仕口で耐力を確保するため、一部の架構や部材に力が集中することがなく、局部的な破壊を起こしにくい架構となっている。柱と横架材は、その接合部のめり込みによって、靱性に優れた粘り強い架構が形成されており、木の特性を生かしたシステムとなっている。さらに、大変形時に耐力が増加する復元力特性を有している架構であり、石端建てとも相俟って、想定外の大地震時にも完全倒壊しない架構である(写②③)。

2例目は構法と意匠を一体的にデザインするとともに、壁から解放された自由な計画を実現している。郊外に建つ片流れ屋根の平屋建て住宅で、挟み梁構法の軽快感を



写①小径木挟み梁構法による1例目外観



写②1例目柱脚部ディテール



写③ 1例目の軸組

強調するため、100ミリ角の桧間伐材で構成した（写④～⑦）。間取りの変更が容易なことに加えて、1例目と同じく石端建てとすることで想定外の大地震や設備の更新、シロアリにも対応し易く、建物を永く使うことができる。また、木の組み合わせによる単純明快な建物であるため、解体や補修も容易であり、新建材もほとんど使わないことから環境への負荷も小さい。これらは多くの伝統的構法にも言えるこ



写④ 小径木挟み梁構法による2例目外観



写⑤ 2例目の軸組



写⑥ 2例目集成梁のディテール



写⑦ 2例目の材料とした桧の間伐材

とであり、こうした意味においても挟み梁構法は伝統的構法に近い構法である。

■建築確認申請について

上記2例のうち1例目は、適合性判定以前に確認申請したものであり、特に困難はなかったが、2例目は受け付けてもらえる審査機関を探すところから苦労を強いられた。これまでの繋がりでも地元の民間機関に何とか受け付けてもらったが、構造審査担当者の理解を得るのに大変な労力を使うこととなった。

現在、限界耐力計算による伝統的構法の確認申請は申請件数が比較的多いとされる関西圏でも、大変困難である。4号建築物規模であっても詳細な許容応力度計算が要求されるなど、設計者の負担も多い。極端な場合は法37条の勝手な拡大解釈をもって柱脚の石の使用を否定する建築主事も実際に存在する状況である。

■知的財産権の保護

建築は多くの先人の知恵のかたまりであり、今の時代に生きる我々の役割は、さらなる知恵を積み重ねて後世に伝えることである。しかし、その知恵に対する権利が保護されなければ、無秩序な模倣が横行し、創造意欲は減退することとなる。そこで関係者と相談の上、小径木挟み梁構法の特許申請を行った。約5年かかったが、平成25年2月に特許登録され、この構法は商業ベースのパクリから保護されることになった。もちろんこの構法に実務者の新たな知恵が加えられ、よりよいものに進化することを望んでいることから、建築技術の発展に貢献するための利用を制限するつもりは毛頭ない。

青年委員会

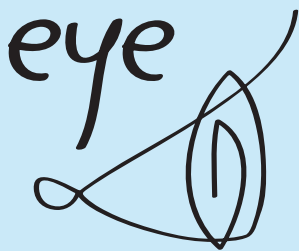
第9回ゴルフコンペ報告

青年委員会は4月4日(木)に甲賀市にあるメイプルヒルズゴルフ倶楽部にて第9回ゴルフコンペを開催致しました。今回は初の4月開催ということもあり、早々に22名のご参加を頂き予想以上の絶好の陽気に恵まれてのコンペとなりました。花粉症でお悩みの方でなければ、一年のうちで一番のゴルフ日和の時期ではないかと思えます。コンペの成績ですが優勝は湖南地域会の山元様でした。

青年委員会では本会のゴルフ同好会から引き継ぎましたこのゴルフコンペを引き続き継続していく予定です。次年度は担当のメンバーも改選となり人事一新となります。また工夫を凝らしたゴルフコンペをご案内させていただきますのでご愛顧の程、よろしくお願い致します。



スタート前の集合写真



— アイ・湖国びとの愛情視線 —

兼業農家
第16回 福井 朝登さん

古民家改修から学ぶ生きる力



ふくい あさひ
福井 朝登さん

1973年大阪市住吉区生まれ。京都工芸繊維大学建築科卒業。一級建築士。高島市マキノ町在原で、妻、息子の3人暮らし。農業と山仕事を生業に“小さなことは気にしない福井の田舎生活”を実践する

田舎暮らしに憧れ、大阪市から高島市マキノ町在原に移住した。朽ちかけていた古民家を7年かけて少しずつ改修、住まいとしてよみがえらせ、家族3人で暮らしている。「じっくり取り組めば、お金をかけなくてもちゃんと完成します。失敗と発見の繰り返しが経験となり、生きる力の基礎にもなりました。知恵と工夫を凝らせば自分の手でできることがたくさんあるんですよ」と語る笑顔は、ゆったり余裕にあふれている。

大学卒業後、設計事務所に入社。1級建築士として病院や老人保健施設など大型施設の設計を担当した。ある冬、暮らしていたアパートの給湯器が壊れたことで疑問が生まれた。「水のシャワーを浴びながら、ボタン一つでガスや電気、水が使える便利な暮らしに危うさを感じました。全部壊れたら一体どうなる？ お金が生きる力だと思っていたけれど、本当は別のところにある気がしました」。何もなくても生きてきた昔の暮らしに興味を持ち、



雑草に覆われ、家に入るのも一苦労だった2002年④。薪が積まれ生活感があふれる現在⑤



いつか田舎で自給自足の暮らしをしてみたいと思うようになった。

9・11同時テロに衝撃を受け、やりたいことは今やろうと移住先を探して2002年に会社を辞めて在原へ。住まいとして手に入れた築120年の古民家は無住となつて久しく、茅葺き屋根は一部抜け落ちて青空がのぞいていた。雨が降り注いだ床は腐りかけてボロボロ。改修は建物の解体から始まった。「ゼロから新しく生み出していたそれまでとは真逆の方法。解体現場に行っては古い建具や土壁用の土など廃材をもらい、竹木舞用の竹や屋根を葺くための葦、茅は自然界から頂きました。植物で屋根を葺くなんて考えられないことでしたが、実践してその仕組みを知ると成程と先人の知恵に感嘆しました」。

塾講師やガソリンスタンドのアルバイトで生計を立て、ワークショップ形式や友人の応援という力を借りながらコツコツと改修作業に取り組んで2009年、ついに完成。昔ながら田の字形で囲炉裏、土間のある立派な住まいがよみがえった。「テント生活をしながらの作業で実感したのは、家は雨風を防ぐシェルターだということ。身近にある自然素材を使って工夫を重ね、辿り着いたのが古民家の形だと思う。冬は寒いなど課題は多く、より良い暮らしを求めて高気密、高断熱へと進歩したのは当然ではありますが、便利になりすぎ、造るということから離れると不安を感じてしまうんですね」。



高島市で行われたセルフビルド塾

経験を生かし、去年は田舎暮らしを応援する団体が開催するセルフビルド塾の講師として高島市内の空き家再生に取り組んだ。「住まいは自分の手で造ってみると面白い。完成品ではない余白を残した家づくりが増えるといいなと思う。家族で壁塗りに取り組めば思い出になるし愛着も湧く。そんなことが生きる力を感じ取る機会になればいい」と、また笑顔がこぼれた。(取材：M. Y)

甲賀地区

家族親睦ボーリング大会を開催しました

甲賀市域会では、恒例となりました家族親睦ボーリング大会を3月23日(土)湖南市の「ボール滋賀」で開催しました。日頃は顔を合わすことの少ない会員の奥様や子供さん達にも参加していただき大変楽しいひと時を過ごすことが出来ました。ゲームで楽しんだ後は隣接のレストランにて会食を交えながらの表彰式を行い大変楽しい家族



親睦会となりました。地域会では会員の研修事業等だけではなく、今後も会員家族の皆様や賛助会員様にもご参加いただける楽しい事業を計画して行きます、ぜひご参加ください。

平成25年度通常総会開催報告

平成25年度甲賀地域会通常総会ならびに平成25年度甲賀地区会員大会を、さる4月12日(金)サントピア水口勤労福祉会館にて開催いたしました。

本会より井島副会長のご臨席を賜り、大角地域会代表のあいさつに引き続き総会が開会され、平成24年度事業・決算の承認に続き、平成25年度新役員、事業、予算が承認されました。本年は役員交代の年であり平成25・26年度役員が選ばれ地域会代表に竹田久志氏、副代表に中本美栄子氏、片淵良氏の新社役と新役員の新しい体制での活動が始まりました。

大角地域会代表、船田副代表の御両名様には甲賀地域会発展に御尽力下さいましてありがとうございました。

新入会員のご紹介

地区	氏名
大津	川越 信彦
大津	梅田 稔之

地区	氏名
湖北	清水 亨
高島	駒井 和久

新入会賛助会員	社名
株式会社オーライズ	

平成25年4月理事会承認分

5月の暦

1 水 赤口		12 日 赤口		23 木 大安	
2 木 先勝		13 月 先勝		24 金 赤口	
3 金 友引	憲法記念日	14 火 友引		25 土 先勝	通常総会
4 土 先負	みどりの日	15 水 先負		26 日 友引	
5 日 仏滅	こどもの日	16 木 仏滅		27 月 先負	
6 月 大安	振替休日	17 金 大安		28 火 仏滅	
7 火 赤口		18 土 赤口	彦根、湖西滋賀地区会員大会	29 水 大安	
8 水 先勝	理事会	19 日 先勝		30 木 赤口	
9 木 友引	一級建築士受付 13日まで	20 月 友引	四役委員長予定者会議	31 金 先勝	
10 金 仏滅		21 火 先負			
11 土 大安	湖東、湖北地区会員大会	22 水 仏滅			

足のむくまま
近江再発見

ヴォーリス通り(高島市)

明治から昭和にかけて、日本に大きな足跡を残したウィリアム・メレル・ヴォーリス。明治38年来日。後に建築事務所を開いて、1600件以上の建築設計を手がけている。滋賀では近江八幡に多くの建築物が残っているが、高島市今津の地もヴォーリスとは縁が深い。

JR湖西線・近江今津駅から旧若狭街道を少し北上すると「ヴォーリス通り」という文字が目に入る。元は辻川通りであったが、「今津ヴォーリス資料館」「日本基督教団今津教会会堂」「旧今津郵便局」という3つのヴォーリス建築が存在することから、近年はヴォーリス通りと呼ばれるようになった。大正から昭和初期の洋風建築を活かした町並み整備が進められている。(滋賀文化のスズメより)

